

特別セミナー  
スラヴ文献言語学の課題と新たなアプローチ  
— 『賢者アキルの物語』 の分析を例に—

平成 26 年度「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」に関わる  
プロジェクト型共同研究

日時：平成 26 年 10 月 11 日（土） 15 時～17 時

場所：東京大学文学部 3 号館 7 階 スラヴ語スラヴ文学演習室

『賢者アキルの物語』は、メソポタミアに起源を発し、中東を経て初期文語時代のスラヴ世界にもたらされたテキストである。『アラビアン・ナイト』にも採録されている物語だが、スラヴ圏テキストがどこでいつ、何語から訳されたかは謎であり、スラヴ各地の写本の系譜にも不明な部分が多い。

本セミナーでは、この物語のテキスト分析を例に、スラヴ文献学の課題と、従来の文献学的手法を越えたアプローチの可能性について考える。

15:00～16:30

講師 佐藤純一（東京大学名誉教授）

『賢者アキルの物語』—

テキストをめぐる諸問題・ブルガリアとロシア

報告者 服部文昭（京都大学）

『賢者アキルの物語』をめぐる—ロシア文章語史の視点から

報告者 三谷恵子（東京大学）

『アキル』はどう伝わったのか—南スラヴ語圏テキストの関係

16:30～17:00

討論 スラヴ文献言語学の再構築—伝統的文献学の限界を超えるには

■本セミナーは北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの助成を得て実施中の共同研究「『賢者アキルの物語』スラヴ語圏テキストの比較研究—スラヴ文献言語学の再構築をめざして」の一部をなすものです。

問い合わせ：東京大学人文社会系研究科 三谷恵子

tridoline@mail.goo.ne.jp（三谷恵子）